

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立元町小学校

4月19日に、全国の6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとまりました。本調査は、国語・算数・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や、日頃の行動・意識等を問う調査(アンケート)も実施されています。全国などの結果を踏まえた、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果 (国語・算数・理科)

本校の平均正答率は、3教科(国語・算数・理科)において、全国平均および京都府・京都市の平均を上回る良好な結果でした。無回答もほとんどなく、記述式の問題にも最後まで取り組んでいました。

国語科より

全体的によくできています。ほとんどの問題で、全国および京都府・京都市の平均を上回っています。特に、「漢字を文の中で正しく使ったり、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書いたりする」問題3の正答率が高かったです。普段から習った漢字を積極的に活用したり、字形を意識して書いたりしていたことが成果として表れたからではないかと考えられます。

しかし、「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」問題1三の正答率が京都府・京都市の平均を少し下回っています。本校では、今年度、「対話力」を高める取組を研究しています。相手の話を聞く際には、話の中心は何なのか、自分の考えと比較したり、関係性を考えたりすることを大切に、さらに話が深まるような学習を継続して行っていきたいと思います。

算数科より

全体的によくできています。ほとんどの問題で、全国および京都府・京都市の平均を上回っています。特に「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する」問題4(1)の正答率が高かったです。一人一台のタブレットを活用して、実際に何度も自分で書いた体験を行ったことで、図形への理解が深まったのではないかと考えられます。

しかし、「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する」問題2(3)や「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する」問題2(4)の正答率が、全国平均よりも下回っています。日常の場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるようにしていくことが今後の課題です。

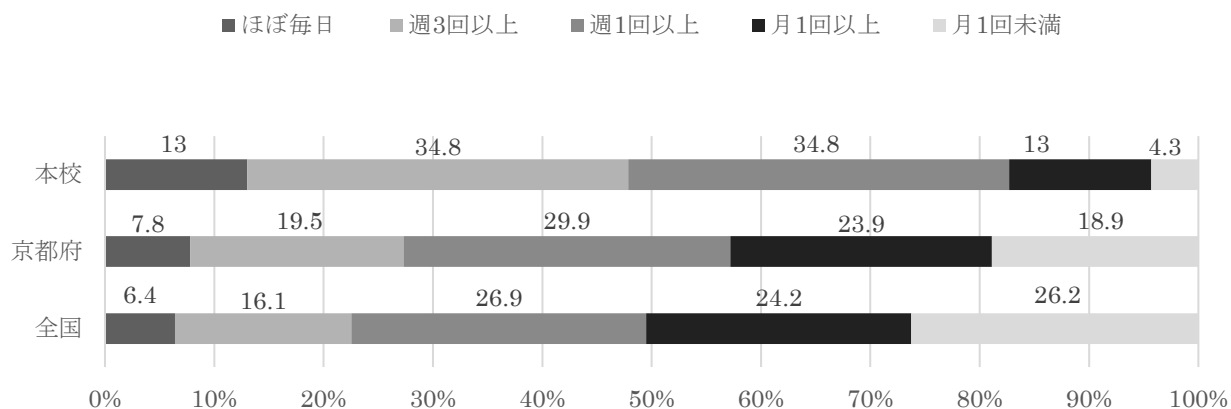
理科より

全体的によくできています。ほとんどの問題で、全国および京都府・京都市の平均を上回っています。特に「観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ」問題1(5)、「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ」問題4(2)の正答率が高かったです。普段の学校生活において、自分の考えをもち思いを発信することを大切にしてきたからではないかと考えられます。

しかし、「メスシリンダーという器具を理解する」問題2(1)、「日光は直進することを理解する」問題3(1)の正答率は、全国平均よりも下回っていました。器具の名称や自然の現象などの知識を日常生活と関連付けて学習につなげていき、より理解が深まるようにしていくことが今後の課題です。

児童質問紙調査より①

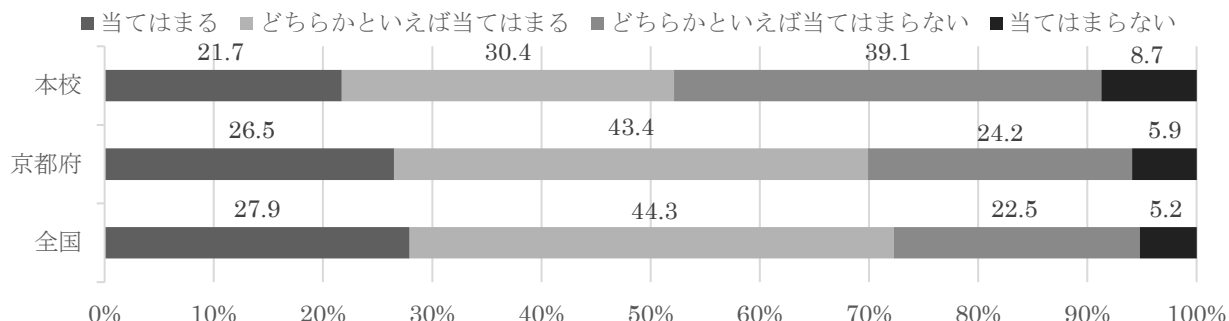
学校で、学級の友だちと意見を交換する場面で、PC・タブレットなどの機器を、どの程度使っていますか。



ICTを週1回以上使っている割合は、全国および京都府・京都市の平均よりも大きく上回っていました。本校では、一人1台のタブレットが導入されてから、積極的にICTを学習の中に取り入れてきました。コロナ禍においては、特に、ロイロノートやTeamsを活用して、グループ交流や全体交流等を行う回数も増えてきました。頻繁に行うことで、子どもたちにとっては、ICT機器を文房具の一つとして使いこなせるようになってきたように感じます。今後は、子どもたちの思考を深められるように、ICTの効果的な活用についても考慮しながら、授業に取り組んでいきたいと思います。

児童質問紙調査より②

5年生までに、受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしなが
ら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



「色々な教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動」においては、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合は、全国や京都府の平均と比べて、少ないという結果が出ています。

各教科の学習では、よく考えて取り組んでいるのですが、他の教科の学習と関連付けながら、学習を深めていけるように、授業の質を高めていきたいと思います。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「夢と笑顔があふれる元気な学校～共に学びあい 自らの手で 未来を切り拓く子どもの育成～」を学校教育目標とし、「もっと学びたいと思える子ども」「ともだちを大切にできる子ども」「まいにち笑顔で過ごせる子ども」「ちゃんと目を見て考えて話せる子ども」と4つの子どもの姿を目指し、子どもたちの「生きる力」を培うために、保護者や地域の皆様の協力を得ながら、教職員一丸となって取組を進めています。

「もっと学びたいと思える子ども(確かな学力)」が具体的に目指すことは、「基礎的・基本的な学力の定着」を図り、「自ら学びに向かう力」を身につけることです。授業では、「めあて」の確認や、「まとめ」や「振り返り」を確実に行うことで、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」が実感できる授業づくりに取り組んでいます。

本校の今回の結果は、国語・算数・理科 3 教科とも全国および京都府・京都市の平均を上回っていました。本校では、昨年度まで各教科や総合的な学習の時間等では、話し合い活動や探究的活動に積極的に取り組んできました。このような継続した取組が、学習に対しての探究力の高まりを育て、学習への意欲につながってきたのだと思います。

また、毎日の家庭学習については、児童質問紙調査からは、家で自分で計画を立てて勉強している割合が全国平均に比べると非常に高いことがわかります。本校では主体的な学

びにつながる自学自習の習慣化を図りたいと考え、自主学習を取り入れています。学年が上がるにつれて子どもが自ら予習・復習を意識し、学習計画を立て実行できるようにしていきたいと考えています。

昨年度までの「発信力」に加えて、今年度から、「対話力」についても重点的に取り組んでいます。「ちゃんと目を見て考えて話せる子ども」の姿を目指していくためにも、各教科や総合的な学習の時間、もっともっとタイム等では、話し合い活動や探究的活動に積極的に取り組み、友だちの意見を受け止め、自分の考えを深めたり広めたりする力を高めていきたいと考えています。子どもたちが地域行事やボランティア活動等を含めいろいろな経験を通して、様々な見方・考え方を学び、自分で課題を見つけたり、解決したりする実践力をつけていきたいと考えています。

これからも、「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の調和のとれた子の育成を目指し、保護者・地域の皆様のご理解とご協力のもと、一人一人の子どもたちの「生きる力」を伸ばす取組を大切にしていきます。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は子ども達の学習状況を知り、子ども達の可能性をさらに伸ばしたり課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を争うものでもありません。学校としては、今回の結果をふり返り、子ども達の学力向上に生かしたいと考えています。

本校の全国学力・学習状況調査の結果が良好であったのは、家庭や地域の教育力の高さが基盤にあると思われます。家庭の教育力が重要であることを再認識いたしました。今後、学力向上のために自ら学ぶ姿勢を大切にし、子ども達の「自学自習」の定着に向けて家庭と学校が連携をしていきたいと思います。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。これからも、子ども達がPTAや地域行事等に参加し、様々な体験をする中で地域や保護者の皆様とかわり合うことを大切にしたいと思います。保護者の皆様には、今後も子ども達の健やかな育ちと学びの環境作りにご協力をお願いいたします。

尚、今回の結果は京都市教育委員会のホームページにも詳しく掲載されています。



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！

